

# HASTIC 安全マニュアル作成へ ロケット落下 大樹町に経過報告

【大樹】NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC)が8日打ち上げた道産ロケット「CAMU-1(カムイ)」のバラシュートが開かず、スタッフらがいた司令室のテントに落下した実験で、伊藤副理事長は、町役場を訪れ、伏見悦夫町長に打ち上げ一連の経過報告と今後の安全対策について説明した。

訪れたのは伊藤副理事長と、ロケットを開発した永田晴紀北大大学院教授。伊藤副理事長は当時の現場の状況を説明した上で、「打ち上げ確認の手順はやっているが、安全確認をきっちり盛り込んだ安全マニュアルを作りたい」とし、「二段、三段構えの安全策を考え

た上で実験に臨みたい」と強調した。

実験には企業や大学が参加しており、「指揮命令系統を明確にし、退避命令に従うなどの安全教育も徹底する」とも述べた。

「心配を掛け、申し訳ありません」と陳謝する伊藤副理事長に、伏見町長は「今回を教訓に安全対策に力を入れてほしい。町としては今後も全

日、広尾署も訪れ、土谷正二署長らにも説明した。伊藤副理事長は同

た。



伏見町長に安全対策について説明する伊藤副理事長(中央)と永田教授(左)

い。町としては今後も全日、広尾署も訪れ、土谷正二署長らにも説明した。伊藤副理事長は同(北雅貴)